

施策評価シートの記載内容

施策は構成する事務事業の達成状況を集約し、総合的に評価を行います。

資料 3

①

施策名と目標

各事務事業の実施目標はP1～6を参照してください。

【第2章】第4次静岡市中期経営計画の施策及び事務事業評価 1 - (1) 重要な管・施設の地震対策

5 各施策の評価結果

施策名	1 - (1)	重要な管・施設の地震対策
目的	この施策は、「水道管の耐震化」、「下水道管の耐震化」、「水道施設の耐震化」及び「下水道施設の津波対策」の4つの事務事業により、想定される巨大地震に備え、管や施設の地震対策及び津波対策を進めることで、危機管理の強化を目指すものである。	

政策 → 施策

政策 1 危機管理を強化する。

- (1) 重要な管・施設の地震対策
- (2) 浸水対策
- (3) 湯水対策
- (4) 災害時などの対応や体制の確立

②

各事務事業の自己評価と外部評価

外部評価結果には、第2回経営協議会で聴取した評価意見と意見を踏まえた評価を記載しています。



1 評価結果 (R3年3月末時点)

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
◎	①水道管の耐震化【水道】	<p>【b評価】</p> <p>水道管の耐震化について、R2計画「2.5km」に対し、「1.8km」を実施した。</p> <p>具体的な取組として、日本平送水管布設替工事や福田ヶ谷送水管布設替工事など6件の工事を実施した。</p> <p>また、成果指標である基幹管路の耐震管率はR2計画「40.5%」に対し、「40.1%」の実績で、達成率は99.5%となったが、活動指標と併せて総合的に判断し「b」評価とした。</p>	<p>【b評価】</p> <p>水道管の耐震化については、計画をやや下回っている。</p> <p>耐震化事業は災害時の市民生活に直結する大切な事業であるため、先を見据え、確実性と安全性を踏まえた工事のスピードアップに努めること。</p> <p>また、遅れが生じた経緯等を今後の改善につなげていくこと。</p> <p>なお、実績値はほぼ達成していて、用地取得が工事遅延の要因であるため、「a」とする評価もあった。</p> <p>【その他の意見】</p> <p>最終的に100%とする目標年度が不明であり、将来的な展望がわかりにくい。(事業全般)</p>

案件1「事務事業外部評価意見・決定」の審議結果により変更となる場合があります。

③

各事務事業の指標と評価のまとめ(4年間)

事務事業評価シートの内容を転記しています。



■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

主要	事務事業名	指標	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
◎	①水道管の耐震化	活動指標	計画値	1.3km	2.5km	2.0km	3.2km	
		成果指標	水道管(基幹管路)の耐震化	実績値	1.3km	1.8km		
			基幹管路の耐震管率	計画値	39.5%	40.5%	41.2%	42.2%
			実績値	39.3%	40.1%			
			達成率	99.5%	ある程度成果が出ているが、目標をやや下回っている			
			自己評価	a	b			
◎	②下水道管の耐震化	活動指標	計画値	6.0km	7.1km	6.3km	9.9km	
		成果指標	重要な下水道管の耐震化	実績値	6.0km	10.4km		
			重要な下水道管の耐震管率	計画値	53.5%	55.0%	56.4%	58.5%
			実績値	53.5%	55.7%			
			達成率	100%	101.3%			
			自己評価	a	a			
◎	③水道施設の耐震化	活動指標	計画値	9,500㎡ (計画見直し)	4,000㎡ (工事着手)			
		成果指標	水道施設の耐震化	実績値	9,500㎡ (計画見直し)			
			配水池の耐震化	計画値	41.0%	42.1%	44.3%	44.3%
			実績値	41.0%	42.1%			
			達成率	100%	100%			
			自己評価	a	a			
◎	④下水道施設の津波対策	活動指標	計画値	—	管轄社口耐津波評価設計 基本設計	管轄社口耐津波評価設計 基本設計	1箇所	
		成果指標	(管轄社口)ゲート設置工事	実績値	—	管轄社口耐津波評価	管轄社口耐津波評価	
			(施設)耐震・耐津波対策基本設計・実施計画策定	計画値	基本設計実施(2箇所)	基本設計実施(2箇所)	基本設計実施(1箇所) 実施計画策定	
			実績値	基本設計実施(2箇所)	基本設計実施(2箇所)			
			達成率	—	—	—	3.2%	
			自己評価	a	a			

④

施策評価

外部評価は第4回経営協議会で確定します。

■施策評価

自己評価	B	<p>重要な管・施設の地震対策について、施策を構成する4つの事務事業のうち、3つの事務事業はR2計画どりの実績となり、R1に引き続き成果が出ている。</p> <p>しかし、「①水道管の耐震化」の事務事業については、R1では計画どりの成果が出ているが、R2では計画を下回る結果となった。</p> <p>以上のことから、想定される巨大地震に備え、管や施設の地震対策及び津波対策を進めることで、危機管理の強化を目指す目的について、ある程度成果は出ているが、あまり達成されていないため、「B」評価とした。</p> <p>重要な管・施設の地震対策は、巨大地震時の被害の抑制につながるため、工事の遅れを取り戻すとともに、早期の事業推進に努めていく。</p>
外部評価		

⑤

改善に向けた取組

評価がA未満となった施策に記載します。

2 改善に向けた取組

本協議会の外部評価に対し、上下水道局から次のような取組方針が示された。

①水道管の耐震化	<p>令和3年度工事各事業管理者との連携、調整を図り、早期に発注し年度内に完成させる。</p> <p>また、他事業との同調施工により事務事業が遅れる可能性がある箇所については、代替路線の工事を実施する。</p>
----------	---